

「沿岸海域の豊かな社会環境創生における拠点研究が果たす役割」

プロジェクト・リーダー：滝川 清・沿岸域環境科学教育研究センター 教授

研究の目的と概要

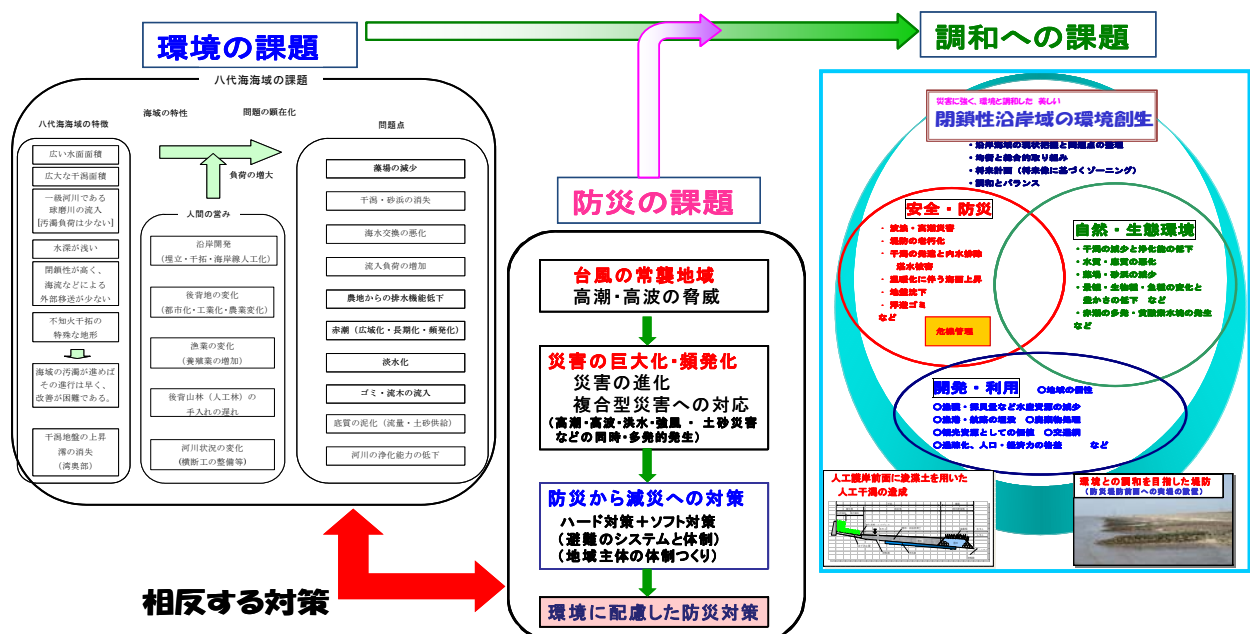
本研究拠点は、有明・八代海域や東シナ海域などの閉鎖性海域が抱える環境と防災問題と地域社会形成に関する、緊急の国家的・国際的重要課題に応えるために、学際的・複合的広範な研究分野から“環境”と“防災”の研究を推進しつつ、“環境と防災の調和”を目指す新たな学識領域の研究教育を行なう。より高度な教育研究の推進と、“優れた地域社会環境の創生（Life ware）”に向けた技術開発と社会政策への貢献を行なう。このために、有明海・八代海を調査・研究のモデル地区として、熊本大学の工学・理学・社会学などから構成した研究者を中心に、国・県・市などの行政機関、民間企業やNPO等との連携を強化するとともに、国内外の大学との研究・人材交流を通じての拠点形成を図り、先端科学研究の展開とこれに必要な人材を育成し研究教育拠点の形成を目指す。

研究の重要性と地域の課題

我国では有明海、八代海、東京湾や伊勢湾など、また東シナ海域のような閉鎖性海域や各地の沿岸域の環境劣化は目に余るものがある。特に、広大な干潟、大潮位差、閉鎖的内湾など独特の自然環境を有する有明海・八代海は、気象・海象・地象の要素に生態系が加わり、さらに内陸からの人為的影響を大きく受ける複雑な因子に支配される環境系にあり、近年の生物相の変化と種の激減、赤潮の頻発、水質・底質の悪化など、急激な環境悪化の悪循環に陥っているものと懸念され、海域環境の回復と再生に関する科学研究の進展と、再生維持策の実施が急を要する国家的課題である。

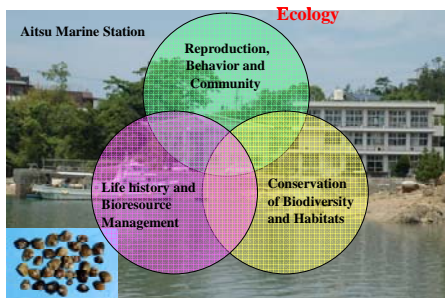
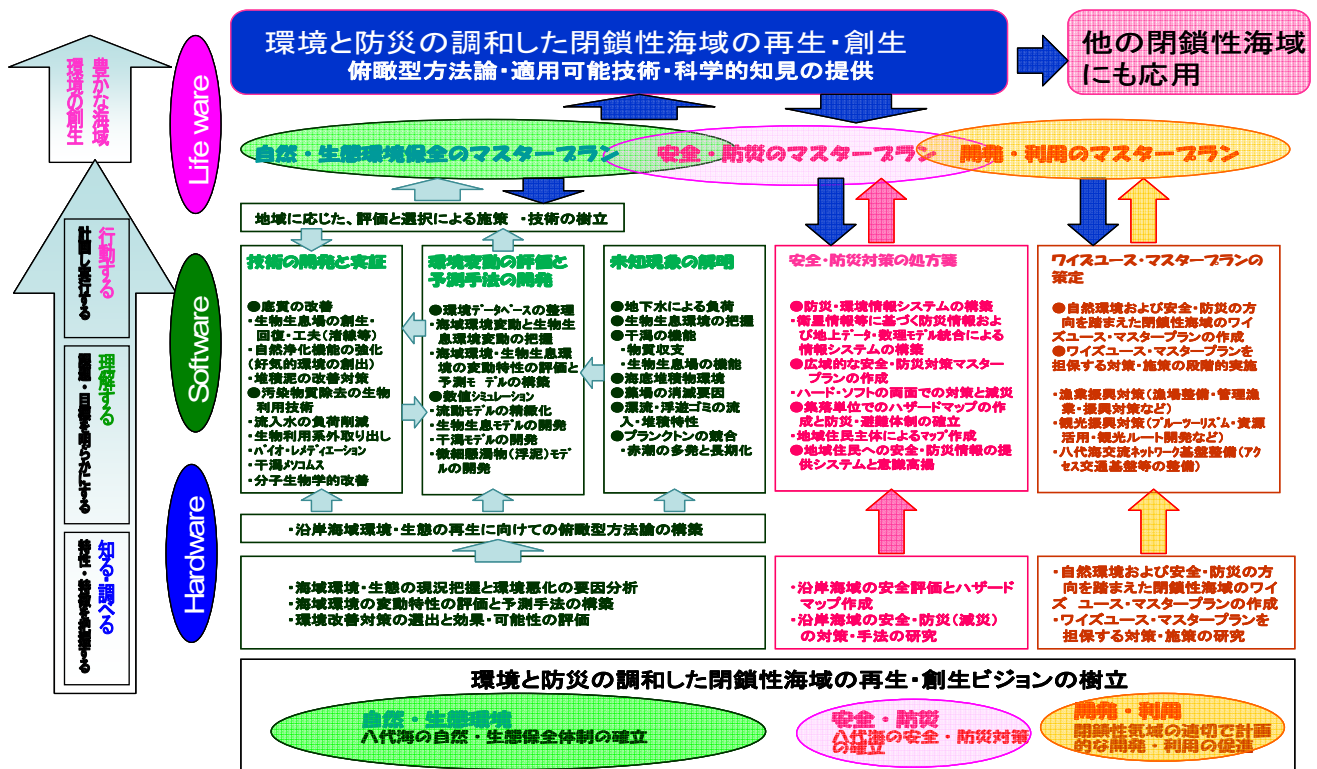
一方、この海域は台風・高潮等の常襲地帯でもあり、海象災害に対する安心・安全性確保のための対策が不可欠な地域でもある。すなわち、この閉鎖性沿岸海域では、「環境」と「防災」という、相反する課題に直面している事実があり、環境あるいは防災のどちらかを選択するというような単純な課題ではなく、如何にして、この相反するテーマに的確に対応していくかという新たな課題に直面してきている現実がある。このように有明・八代海の沿岸地域においては、災害に強く安全でかつ環境と調和した、個性ある地域創りに関する早急な学術的、技術的対応へのマスタープランを早急に創り上げねばならない状況下にある。

●閉鎖性海域の課題： (環境)と(防災)、環境・防災と調和した沿岸環境の創生



研究のテーマ

わが国で最も閉鎖度が高く、環境悪化が著しい有明海・八代海が抱える環境再生と防災問題の緊急かつ重要な地域課題に対し、「環境と防災の調和した八代海の再生・創生」を目標に、従来は学術領域として分離していた「自然・生態」「安全・防災」「開発・利用」の3領域の総合化を基本として、図のような各テーマの研究を行う。



Ocypodid crabs: (a) *Uca lactea* and (b) *Macrophthalmus japonicus*



Storm surge in yatusiro-bay of Kumamoto on September 24.